

1 単元名 読書の世界を広げよう 題材「千年の釘にいどむ」 光村図書5年上

2 目 標

- ドキュメンタリーを読み、日本の伝統や職人の技に興味をもつとともに、本の世界の広さや楽しさに気付くことができる。(国語への関心・意欲・態度)
- 「千年の釘にいどむ」や、読んだ本について、自分の感じ方や考え方を明確にして感想をまとめることができる。(書く能力)
- 「千年の釘にいどむ」に書かれている事実に基づいて、自分の感想をまとめながら読むことができる。(読む能力)

3 指導場の立場

- 児童の実態

削除しています。

○題材観

「千年の釘にいどむ」は、四国のかじ職人・白鷹幸伯さんが、古代の釘を再現する中で解明していった、当時の釘の見事さについて説明しながら、釘作りに挑む職人の心意気を描いた文章である。

文章構成は、「はじめ・中・終わり」の分かりやすい形になっており、「中」では、古代の釘の見事さの3つの側面が1行空きになっているため、読みやすい文章である。

また、短く、畳みかけるような文章、体言止め、「 」を使った語りかけるような書きぶりなど、内容のおもしろさを支える書きぶりにもふれることができる題材である。

ドキュメンタリーの題材は児童にとって初めてであるが、千年以上前の職人の高度な技術と、白鷹さんの職人としての熱意や誇りの2つを柱として、両方のすばらしさを読み取ることで、児童は自分なりの考えをもちやすくなるものと思われる。

○本単元で工夫する点や手立て

**領域を有機的に結びつけた関連的な指導（読む・書く）  
説明文教材に、表現活動（書く活動）を取り入れた単元構想の工夫**

- ・ワークシートを用いて、書かれている内容を正確にとらえられるようにする。  
白鷹さんが驚いた古代の釘の見事さを正確に読み取るために、材料となる鉄の性質、釘の形、釘のかたさの3つの見事さを区別して書くことができるワークシートを用意する。次に白鷹さんの釘作りに取り組む姿を読み取る。また、それぞれの段落で児童がもった感想を色別の付箋紙（青…古代の釘作り、赤…白鷹さんの釘作り）に書かせ、ワークシートに貼っていくことで、自分の考えを書く際の意欲づけになるようにし、一人一人が友達と意見を交流する際の手がかりを増やせるようにしたい。

**内容のおもしろさとそれを支えている書きぶりのおもしろさの両面を読む学習活動の工夫**

- ・読者を引きつける書き方の工夫に目を向け、筆者が伝えたいことをつかむ。  
児童はこれまで、書かれた内容を丁寧に読み取る学習を多く経験してきたが、書きぶりの工夫については、それほど経験を積んでいないため、短く、畳みかけるような文章、体言止め、「 」を使った語りかけるような書きぶりなどの工夫を紹介し、文中から工夫を探しながら読むことで、筆者が強調したいことに気付くことができるようにしたい。

○授業改善の視点

「文中の言葉と表現の工夫から、作品を読み深めていく授業」

4 指導計画 (全14時間)

- 第1次 学習の見通しをもつ・・・(3時間)
  - 第1時 新出漢字練習・意味調べをする。
  - 第2時 「はじめ」・「中」・「終わり」の大まかな構成をつかむ。
  - 第3時 書きぶりの工夫について知るとともに、感想を交流して、読みのめあてをもつ。
- 第2次 「千年の釘にいどむ」をめあてにそって読む・・・(6時間)
  - 第1時 薬師寺再建計画の壮大さを読む。
  - 第2時 今の釘と古代の釘の性質のちがいを読み取る。
  - 第3時 古代の釘の形の秘密を読み取る。
  - 第4時 古代の釘のかたさの秘密を読み取る。
  - 第5時 白鷹さんの努力や工夫を読む。(本時 第5時)
  - 第6時 感想を話し合い、まとめる。
- 第3次 ノンフィクションの作品を読み、紹介する・・・(5時間)

5 評価

- ノンフィクションの本にも目を向け、読書の幅を広げる。(国語への関心・意欲・態度)
- 古代の釘の見事さや白鷹さんの工夫について自分の考えを書くことができる。(書く能力)
- 「千年の釘にいどむ」に書かれている事実に基づいて、自分の感想をもちながら読む。(読む能力)

6 本時案 (第2次 第5時)

目 標	釘作りを続ける白鷹さんの姿から、白鷹さんの職人としての思いに気付き、友達と意見を交流しながら、感想を書くことができる。
学 習 活 動	指導・支援・評価に関する配慮事項など
1 本時の学習を知る。	○古代の秘密を見つけた後も白鷹さんが釘作りを続ける理由を考えることを伝える。
<b>白鷹さんが、釘を作り続けるのはなぜだろう。</b>	
2 白鷹さんが釘作りを続ける姿を読む。	○白鷹さんがしたことが分かる言葉を手がかりに、白鷹さんの釘作りに臨む姿勢を読み取る。 ・「何本も何本も作り直した。」「改良を続けた。」「もっといい釘を作ろうとしている。」などの表現に目を向け、なおも釘を作ろうとする姿に気付かせたい。
3 白鷹さんがいどんでいるものは何かを考える。	○ 24,000本もの釘を作った白鷹さんが、釘を作り続けるわけを考える。
(期待する反応) 白鷹さんの言葉を引用した箇所から、自分が感想をもった箇所に傍線を引かせ付箋に感想を書いて貼ることができる。	
	◎白鷹さんの釘作りを読んで、自分なりの感想を書くことができたか。(書く能力)
4 白鷹さんが残したいもの考える。	○付箋に書いた感想をもとに班で話し合い、千年後に残したいものは何かを話し合う。
5 本時の学習のまとめをする。	○これまでに貼った付箋をもとに、「千年の釘にいどむ」の感想を書くことを知らせる。